

ヘルパンギーナの流行について（警報）【速報値】

令和4年（2022年）8月25日（木）15時00分

北海道江別保健所
（北海道石狩振興局保健環境部保健行政室）
電話：011-383-2111

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和4年（2022年）第33週（8月15日～8月21日）において、江別保健所管内の定点あたりのヘルパンギーナ患者報告数が、警報基準である6人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、江別保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いします。

記

1 ヘルパンギーナ受診数 第33週（令和4年8月15日～8月21日【速報値】）

区分	江別保健所	全道※	全国※
定点当たり患者数	6.80人	1.36人	0.59人
定点受診患者総数	34人	190人	1,773人

※全道、全国数値は第32週（令和4年8月8日～8月14日）

2 ヘルパンギーナとは

急性のウイルス性咽頭炎で乳幼児を中心に夏季に流行する夏風邪の代表的疾患です。

特に4歳以下の小児に多く、主に飛沫感染・経口感染（糞口感染）し、2～4日の潜伏期を経て突然の発熱とともにのどの奥に痛みを伴う水疱・潰瘍をきたします。

重症化することは少なく、症状は2～4日で落ち着きますが、熱性けいれんやのどの痛みによる食欲不振、脱水症を起こすことがあります。

また、まれに無菌性髄膜炎やウイルス性心膜炎などを合併することもあるので、頭痛・嘔吐や様子がおかしいといった症状がある場合は注意が必要です。

なお、感染状況は、北海道感染症情報センターのホームページでご覧になれます。

（URL：<https://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/610/map.html>）

3 ヘルパンギーナの感染予防

治癒後も3～4週間は原因ウイルスが便中に排出され、感染しても発症しない例（不顕性感染）も多いため、感染者との接触を避けることは現実的に困難であり、特別な予防法はありません。

手洗い、うがいを励行するとともに、集団生活ではタオルなどの共用は避けましょう。

4 その他

（1）ヘルパンギーナの警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査事業の一環として、江別保健所管内の医療機関（施設数5カ所）を受診したヘルパンギーナ患者数を一週間ごとに把握・集計し、あらかじめ定めた警報の基準値を超えた場合に発令します。

警報は、大きな流行の発生や継続が疑われることを示しています。

【警報の基準】

警報：1定点医療機関当たりの受診患者数が一週間で6人以上となった場合

※警報発令後は、1定点医療機関当たりの受診患者数が2人以上の場合は警報を継続

（2）最近5週における定点医療機関からのヘルパンギーナ患者報告状況

（表示は「報告数（患者/定点）」単位：人）

	第28週 (7/11～7/17)	第29週 (7/18～7/24)	第30週 (7/25～7/31)	第31週 (8/1～8/7)	第32週 (8/8～8/14)
江別保健所	1 (0.20)	3 (0.60)	6 (1.20)	21 (4.20)	23 (4.60)
全道	59 (0.42)	90 (0.64)	131 (0.94)	212 (1.51)	190 (1.36)
全国	1,609 (0.51)	1,700 (0.54)	2,344 (0.75)	2,456 (0.80)	1,773 (0.59)